

## 復元製作実施設計

<p>〔復元資料名〕 <small>しろじぼたんおながどりりゅうすいしょうぶもようめいしゅう</small> 白地牡丹尾長鳥流水菖蒲模様紅型木綿衣裳</p>	
<p>〔原資料名〕 白地牡丹尾長鳥流水菖蒲文様紅型木綿衣裳</p>	<p>〔指定〕 琉球国王尚家関係資料 国宝〈歴史資料〉(平成18年6月9日)</p>
<p>〔年代〕 18～19世紀</p>	<p>〔作者〕 ー</p>
<p>〔所蔵〕 那覇市歴史博物館</p>	<p>〔所蔵番号〕 40-紅型-32-32</p>
<p>〔選定理由〕</p> <p>国宝「琉球国王尚家関係資料」のひとつで、首里王府の貝摺奉行所絵師により下絵が描かれた作例のひとつである。</p> <p>複数の型紙を使い、絵羽を表す鎖大模様型の代表作である。また、木綿の布に両面から染められており、細部まで神経が行き届いた染色には、近代に失われた技法がみられ、模造復元を通して近世琉球の紅型を探求し、最高潮に達した紅型の技の一例として資料を復元対象とした。</p>	
<p>〔保存状態〕 良好</p>	
<p>〔法量〕</p> <p>布幅：38.6cm 前幅(裾)：30.0cm 前幅(衿下)：25.0cm 前幅(袖下)：未計測 前幅(剣先)：23.5cm 後幅(裾)：30.8cm 肩幅：29.6cm 袖幅：20.0cm 身丈：118.5cm 袖丈：64.4cm 袖付け：28.0cm 身八口：7.4cm 襷：なし 衿幅：17.5cm 合妻幅：16.4cm 衿下：22.2cm 衿下：11.1cm 衿肩あき：6.1cm 衿幅：12.6cm 衿丈：103.0cm</p>	
<p>〔素材・材質〕 基布：白綿布、縫糸：白綿糸(諸撚糸)</p>	<p>〔色材〕 緑色：藍+黄色色材 青色：藍、ペロ藍</p>
<p>〔技法〕 白綿布組織：平織 白綿布密度：経糸14本/0.5cm 緯糸13本/0.5cm 型紙：型染大模様、白地型(複数枚) 染色：両面染、忍摺り(牡丹の暈し部分)縫製：単衣(揚げなし)</p>	<p>〔付属〕 なし</p> <p>〔想定される科学調査〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光X線非破壊分析(顔料)</li> <li>・三次元蛍光スペクトル非破壊分析(染料)</li> <li>・可視-近赤外反射反射スペクトル非破壊分析(色材固有のスペクトル解析)</li> <li>・赤外線写真(画像解析)</li> </ul>
<p>〔主たる材料調達先〕</p> <p>原綿：県外の専門店から調達(和綿・アジア綿にするかは監修者会議で決定する) 手紡綿糸：県外の専門店から調達(1期目は、奈良県の益久染織研究所から購入) 色材：科学分析結果に基づき県外の専門店から調達(京都の放光堂、他) 型紙用の紙：県外の専門店から調達</p>	

[年度別工程表]

年度	製作作業内容
2024(令和6)年	①県内資料調査・研究
	②科学調査
	③下絵作成(衣裳全体構図)
	④手紡綿糸作り
	⑤型紙確保
2025(令和7)年	①県内資料調査・研究
	②色材確保
	③染色実験
	④下絵作成
	⑤型彫り
	⑥縫製設計図作成
	⑦縫製見本製作
	⑧白綿布試作
2026(令和8)年	①県内資料調査・研究
	②型染め試作
	③配色見本製作
	④白綿布本製作
2027(令和9)年	①県内資料調査・研究
	②型紙調整
	③紅型本製作
2028(令和10)年	①県内資料調査・研究
	②本縫製
	③保管箱

[製作仕様]

(1) 基布(白綿布)製作

- ① 糸質・密度・布幅は、原資料に基づき協議の上決定する。
- ② 試織1：糸質(太さ、撚り数)及び箴密度を決定するためのサンプル製作。
- ③ 試織2：本製作の確認のための試作。
- ④ 本製織

素材：綿(cotton)。原綿の種類(和綿、アジア綿等)について協議し決定する。

原資料の糸質(太さおよび撚り数)に近い経糸・緯糸共にS撚り単糸とする。精・漂白した白綿とする。

経糸糊付け：糊は天然糊(澱粉糊またはふのりについては協議する)を使用し、一本糊付けとする。

布密度(完成後)：経糸14本/0.5cm、緯糸13本/0.5cm

布幅(完成後)：約38.6cm

布長(完成後)：2040.0cm(2反分：試作用+本製作用)

2×(身丈118.5×6+袖丈64.4×4+見本)

\*布密度・布幅・布長は目安とする。

洗濯仕上げ：糊落とし、地直し。

(2) 紅型製作

- ① 原資料の模様、配色、色材（科学調査の結果）に基づいた製作とする。
- ② 原資料および原資料の原寸大画像をトレースし、下絵を作成する。
- ③ 型紙の紙質について協議する。
- ④ 型彫りは突き彫りとする。
- ⑤ 紗張りまたは糸掛けについて協議する。

(3) 縫製

- ① 原資料の縫製（寸法、形態、縫い糸等）に基づいた製作とする。
- ② 原資料調査データに基づいて寸法表・裁断図・完成縮尺図を作成する。
- ③ 原寸大の縫製見本を作成する。
- ④ 縫製見本と原資料を確認し、本縫製へ進む。縫糸は、原資料に近い綿諸撚糸とする。

(4) 納品

試作および本製作、余った材料の一部、調査時・試作時・本製作時の写真等、報告書を納品すること。本製作の作品については、中性紙製の紙箱を作成して納品すること。

\* 作品用の中性紙箱のサイズ（W:幅・D:奥行き・H:高さ）は、博物館担当者と調整すること。

\* その他、製作過程で問題が生じた場合は協議の上決定する。

[調査]

2005年(平成17) デンマテリアル株式会社 色材科学研究所による非破壊色材調査  
2023年(令和4)10月31日 熟覧調査(R4第2回ワーキング)

[類例・参考]

(1) 衣裳

「464 王妃着用黄色地紅型鎖大模様上布地上衣」 p. 352 (鎌倉芳太郎『沖縄文化の遺宝』岩波書店、1982年)。

(2) 下絵

「368 黄色地紅型模様図案〈牡丹尾長鳥、流水に菖蒲〉」 p. 352 (鎌倉芳太郎『沖縄文化の遺宝』岩波書店、1982年)。

(3) 型紙

「No. 1343 牡丹尾長鳥模様白地型紙」 p. 174、「No. 988 流水菖蒲模様白地型紙」 p. 154、「No. 925 流水菖蒲模様白地型紙」 p. 155 (沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵『鎌倉芳太郎資料集 第一巻 紅型型紙(一)』沖縄県立芸術大学附属研究所、2002年)。

[資料名] 那霸市歴史博物館所蔵「白地牡丹尾長鳥流水菖蒲文様紅型木綿衣裳」



前身頃



後身頃

<small>かすみ つるまつうめもよう しるじかたがみおよびかすみ しるじつるまつうめもようびんがたちよ ま こどもいしょう</small> <b>〔復元資料名〕 霞に鶴松梅模様白地型紙及び霞に白地鶴松梅模様紅型苧麻子供衣裳</b>	
〔原資料名〕 麻・露に鶴松梅模様子供着	〔指定〕 なし
〔年代〕 19世紀	〔作者〕 ー
〔所蔵〕 沖縄県立博物館・美術館	〔所蔵番号〕
<b>〔選定理由〕</b> <p>紅型の型染は糸掛による型紙で糊防染し、彩色する技法である。戦後、型紙は紗張りに代わり、糸掛けによる型紙づくりや染色技法の継承が危ぶまれている。紗張りでは得られない糸掛け型紙よるやわらかな描線を復元することが選定の理由である。</p> <p>糸掛け型紙を用いて製作を予定する資料は子供着であるが、尚家に類例が残るなど、高位の身分の子供が着用したものと考えられる。大柄の模様が重なるように表され、糸掛けする白場も多く、糸掛け型紙を使用した両面染を模造する最適な作例と思われる。</p>	
〔保存状態〕 良好	
<b>〔法量〕</b> 布幅：36.0cm 前幅（裾）：16.5cm 前幅（衿下）：14.5cm 前幅（袖下）：12.5cm 前幅（剣先）：9.0cm 後幅（裾）：17.0cmか？ 肩幅：12.0cm 袖幅：16.0cm 身丈：53.0cm 袖丈：29.0cm 袖付け：13.0cm 身八口：8.0cm 襷：なし 衿幅：8.0cm 合妻幅：7.0cm 衿下：20.5cm 衿下：7.5cm 衿肩あき：5.0cm 衿幅：3.3cm 衿長：42.0×2.0cm 紐（下前）：63.5cm 紐（上前）：65.0cm	
〔素材・材質〕 基布：白上布	〔色材〕 未調査
<b>〔技法〕</b> 白上布組織：平織 白上布密度：経糸 12.5本/0.5cm、2本撚り結び 緯糸 12.5本/0.5cm、1本撚り結び 型紙：大模様、白地型 現状色（目視）：白地、水色、黄、緑、赤、 黄味の赤、青紫、赤紫、黒 染色法：型染、両面染 縫製：単衣、子供用、縫糸は絹糸	<b>〔付属〕</b> なし
	<b>〔想定される科学調査〕</b> ・蛍光 X線非破壊分析（顔料） ・三次元蛍光スペクトル非破壊分析（染料） ・可視-近赤外反射反射スペクトル非破壊分析 （色材固有のスペクトル解析） ・赤外線写真（画像解析）
<b>〔主たる材料調達先〕</b> 苧麻糸：宮古島または石垣島 色 材：県外の専門店（科学分析結果に基づく） 型 紙：県外の専門店（京都の放光堂、他）	

[年度別工程表]

年度	製作作業内容
2024(令和6)年	①県内資料調査・研究
	②科学調査
	③下絵作成(衣裳全体構図)
	④苧麻糸確保(糸績み)
	⑤型紙・生糸確保
2025(令和7)年	①県内資料調査・研究
	②色材確保
	③染色実験
	④下絵作成(衣裳全体構図)
	⑤型彫り・糸掛け
	⑥型紙試作(染色実験)
	⑦縫製設計図作成
	⑧縫製見本製作
	⑨苧麻布試作
2026(令和8)年	①県内資料調査・研究
	②型染め試作
	③配色見本製作
	④苧麻布本製作
2027(令和9)年	①県内資料調査・研究
	②型紙調整
	③紅型本製作
2028(令和10)年	①県内資料調査・研究
	②本縫製
	③保管箱作成

[製作仕様]

(1) 紅型基布(苧麻布) 製作

- ① 原資料の糸質・密度・布幅は原資料に基づき協議の上決定する。
- ② 試織1: 糸質(太さ、撚り数)及び箆密度を決定するためのサンプル製作。
- ③ 試織2: 本製作の確認のための試作。

④ 本製織

素材: 苧麻。産地は宮古島及び八重山島が考えられている。

原資料の糸質(太さおよび撚り数)に近い経糸・緯糸とする。

漂白した白上布とする。

布密度(完成後): 経糸 12.5本/0.5cm、緯糸 12.5本/0.5cm

布幅(完成後): 未測定

布長(完成後): 870.0cm(2反分: 試作用+本製作用)  
2×(身丈 53.0×6+袖丈 29.0×4+見本)

洗濯仕上げ: 糊落とし、地直し

## (2) 紅型製作

- ① 原資料の模様、配色、色材（科学調査結果または科学調査した類似資料の結果）に基づいた製作とする。
- ② 原資料および原資料の原寸大画像をトレースし、下絵を作成する。
- ③ 型紙の紙質について協議する。
- ④ 型彫りは突き彫りとする。
- ⑤ 糸掛け型紙とする。糸は現存型紙資料に基づいて生糸とする。
- ⑥ 渋については協議する。

## (3) 縫製

- ① 原資料の縫製（寸法、形態、縫い糸等）に基づいた製作とする。
- ② 原資料調査データに基づいて寸法表・裁断図・完成縮尺図を作成する。
- ③ 原寸大の縫製見本を作成する。
- ④ 縫製見本と原資料を確認し、本縫製へ進む。

## (4) 納品

試作および本製作、余った材料の一部、調査時・試作時・本製作時の写真等、報告書を納品すること。本製作の作品については、中性紙製の紙箱を作成して納品すること。

\* 作品用の中性紙箱のサイズ（W:幅・D:奥行き・H:高さ）は、博物館担当者に確認すること。

## [類例・参考]

### (1) 衣裳

「黄色地鶴松竹梅紅葉文様紅型平絹袷衣裳（同意）」那覇市歴史博物館所蔵

p. 52 「尚家継承琉球王朝文化遺産展」図録、琉球新報社、1993年。

pp. 36-37 「かがやく琉球王家の至宝 尚家継承文化遺産」那覇文化局歴史資料室、1997年。

### (2) 型紙

「No. 292 霞松楓模様白地型紙」p. 134（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵『鎌倉芳太郎資料集 第二巻 紅型型紙(二)』沖縄県立芸術大学附属研究所、2003年）。

「No. 1153 鶴梅笹模様白地型紙」p. 182（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵『鎌倉芳太郎資料集 第一巻 紅型型紙(一)』沖縄県立芸術大学附属研究所、2002年）。



[資料名] 沖縄県立博物館・美術館所蔵「麻・露に鶴松梅模様子供着」



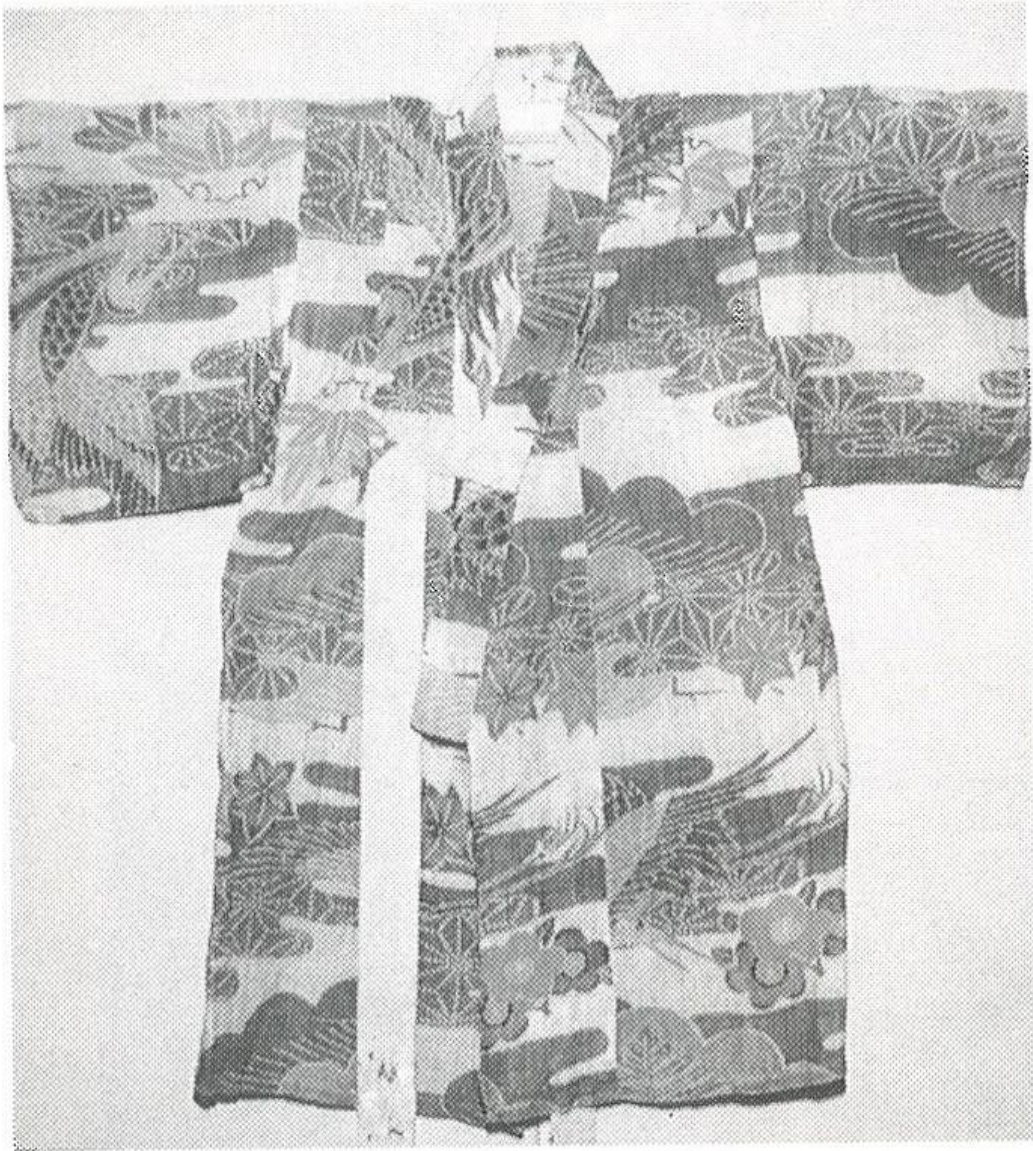
後身頃

「31 Child' s costume」 p. 94

編者 Lee Talbot・與那嶺一子『BINGATA! Only in Okinawa』沖縄県、2016年。



[資料名] 沖縄県立博物館・美術館所蔵「麻・露に鶴松梅模様子供着」



前身頃

p.117 「写真 58 紅型子供衣」

辻合喜代太郎・橋本千榮子『琉球服装の研究』関西衣生活研究会、1991年。

<small>こげちやじたてよこがすりのむぎあわせいしょう</small> <b>【復元資料名】 焦茶地経緯緋紬袷</b>	
<b>【原資料名】 久米島紬古裂帖より経緯緋</b>	<b>【指定】 なし</b>
<b>【年代】 17～18 世紀</b>	<b>【作者】 ー</b>
<b>【所蔵】 沖縄県立博物館・美術館</b>	<b>【所蔵番号】 1738</b>
<b>【選定理由】</b> 久米島の上江洲家は琉球王国時代、具志川間切の地頭代を務めており、「久米島紬古裂帖」は上江洲家に伝世した資料である。鎌倉芳太郎の調査や久米島喜久村家の家譜などから 18 世紀頃の裂をまとめたものであることが分かってきた。 本作例は製作年代の明らかな貴重なものであり、18 世紀の緋の例として模造復元する。	
<b>【保存状態】</b> 経年による劣化	
<b>【法量】</b> 裂の縦：12.5 cm（要計測） 裂の緯：6.5 cm（要計測）	
<b>【素材・材質】</b> 真綿紬	<b>【色材】</b> 未調査
<b>【技法】</b> 組 織：平織 密 度：経糸 34 本/cm、緯糸 24 本/cm 現状色：茶（経・緯地）、青（経緋）、青緑（緯緋）、 赤（緯緋）、白（縞、緯緋）、黄（縞） 技法及び模様：格子、経緋、緯緋	<b>【付属】</b> なし
<b>【想定される科学調査】</b> ・ 三次元蛍光スペクトル非破壊分析（染料） ・ 可視-近赤外反射反射スペクトル非破壊分析 （色材固有のスペクトル解析） ・ 赤外線写真（画像解析）	<b>【主たる材料調達先】</b> 真綿紬糸：久米島 色 材：久米島、県外染料店

[年度別工程表]

年度	製作作業内容
2024(令和6)年	①県内資料調査・研究
	②科学調査（非破壊色材分析）
	③図案作成
	④真綿作り
2025(令和7)年	①県内資料調査・研究
	②紬糸作り
	③色材確保
	④染色実験
	⑤図案作成・織物設計作成
	⑥縫製参考資料の熟覧調査
	⑦縫製設計図作成
2026(令和8)年	①県内資料調査・研究
	②試染糸（色見本）
	③表地試作
	④裏地試作
2027(令和9)年	①県内資料調査・研究
	②表地本製作
	③裏地本製作
2028(令和10)年	①県内資料調査・研究
	②本縫製
	③保管箱作成

[製作仕様]

(1) 表地製作

- ① 原資料の糸質・密度・布幅は、原資料に基づき協議の上決定する。
- ② 試織1：糸質（太さ、撚り数）及び箆密度を決定するための試作。
- ③ 試織2：本製作の確認のための試作。
- ④ 本製織。

素材：真綿紬

原資料の糸質（太さおよび撚り数）に近い糸とする。

経糸糊付け：糊は天然糊（澱粉糊またはふのりについては協議する）を使用し、  
一本糊付けとする。

布密度（完成後）：未計測

布幅（完成後）：協議にて決定する

布長（完成後）：協議にて決定する

洗濯仕上げ：協議にて決定する

(2) 裏地製作

- ① 参考資料に基づいた製作とする。

(3) 縫製

- ① 参考資料に基づいた製作（袷仕立て）とする。
- ② 参考資料調査データに基づいて寸法表・裁断図・完成縮尺図を作成する。
- ③ 原寸大の縫製見本を作成する。
- ④ 縫製見本と原資料を確認し、本縫製へ進む。

(4) 納品

試作および本製作、余った材料、調査時・試作時・本製作時の写真等、報告書を納品すること。本製作の作品については、中性紙製の紙箱を作成して納品すること。

\* 作品用の中性紙箱のサイズ（W:幅・D:奥行き・H:高さ）は、博物館担当者に確認すること。

**[調査]**

令和4年度 第2回ワーキングにて調査

日 時：令和4年10月31日

場 所：沖縄県立博物館・美術館

調査者：祝嶺委員、渡名喜委員、山田委員

與那嶺、篠原（事務局/県博）、宮城（事務局/共同体/美ら島）

**[類例・参考]**

- ・上江洲家関係資料（久米島博物館寄託）
- ・「工芸 染織工（久米嶋之部）A」p397（『鎌倉芳太郎資料集（ノート篇）第一巻 美術・工芸』沖縄県立芸術大学附属研究所、2004年）。

[資料名] 沖縄県立博物館・美術館所蔵「久米島紬古裂帖」



<p style="text-align: center;">み え ず お よ き い ろ じ あ か み ど り く ろ た て よ こ か す り ち ょ ま い し ょ う</p> <p><b>〔復元資料名〕 御絵図及び黄色地赤 緑 黒経緯 緋 苧麻衣裳</b></p>	
〔原資料名〕 御絵図、上布衣裳	〔指定〕 なし
〔年代〕 18～19 世紀	〔作者〕 ー
〔所蔵〕 沖縄県立博物館・美術館	〔所蔵番号〕 M02
<p><b>〔選定理由〕</b></p> <p>御絵図は首里王府が久米島、八重山、宮古で御用布を織らせるための織物図案（見本）である。各島々ではこれを元に製織された。本資料は道光拾八年（1838）八重山嶋へ、道光二十三年（1843）には久米島へ送られていたことがわかる。19 世紀の緋の作例として選定し、御絵図から上布製作への工程を示す例として御絵図を製作する。</p> <p>近世の上布の技法として、白地紺緋布に黄色や紅色で地染めする方法は既に復元されており、今回は黄色の地に赤、緑、黒色緋の例を模造復元することで、上布製作の新たな技法を知る機会となる。</p> <p>本絵図と同柄、類似柄の資料は現存しておらず、図柄は御絵図を例とし、布の密度や衣裳形態、縫製については沖縄県立博物館・美術館等の類例を参考とする。</p>	
<p><b>〔保存状態〕</b></p> <p>良好</p>	
<p><b>〔法量〕</b> 御絵図 M02</p> <p>縦：27.8cm 横：37.8cm</p>	
<p><b>〔素材・材質〕</b></p> <p>御絵図：コウゾ（pp. 14-30『尚家関係資料総合調査報告書 I 古文書編』那覇市、2003 年。）を参照し検討する。</p> <p>衣 裳：苧麻</p>	<p><b>〔色材〕</b></p> <p>御絵図：那覇市歴史博物館所蔵「御絵図」の非破壊色材分析の結果を参考とする。</p> <p>衣 裳：参考資料の非破壊色材分析の結果を参考とする。</p>
<p><b>〔技法〕</b></p> <p>御絵図：紙本着色</p> <p>衣 裳：平織、</p>	<p><b>〔付属〕</b></p> <p>なし</p>
<p><b>〔想定される科学調査〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蛍光 X 線非破壊分析（顔料）</li> <li>・ 三次元蛍光スペクトル非破壊分析（染料）</li> <li>・ 可視-近赤外反射反射スペクトル非破壊分析（色材固有のスペクトル解析）</li> <li>・ 赤外線写真（画像解析）</li> </ul>	<p><b>〔主たる材料調達先〕</b></p> <p>御絵図の紙：科学分析等をもとに協議する</p> <p>色材：県外染料店</p> <p>苧麻糸：石垣島または宮古島</p>



[年度別工程表]

年度	製作作業内容
2024(令和6)年	①県内資料調査・研究
	②科学調査
	③苧麻糸作り
2025(令和7)年	①県内資料調査・研究
	②苧麻糸作り
	③色材確保(御絵図、苧麻衣裳)
	④苧麻衣裳糸試染
	⑤御絵図の紙材確保
	⑥御絵図試作
	⑦縫製設計図作成
	⑧縫製見本製作
2026(令和8)年	①県内資料調査・研究
	②苧麻衣裳試作
	③御絵図本製作
2027(令和9)年	①県内資料調査・研究
	②苧麻衣裳本製作
2028(令和10)年	①県内資料調査・研究
	②本縫製
	③保管箱作成

[製作仕様]

(1) 御絵図製作

- ① 原資料の紙質、模様、配色、色材(科学調査の結果)に基づいた製作とする。
- ② 大まかな製作工程は、原資料をトレース(下絵)し、本製作用の和紙に写して彩色する。
- ③ 和紙は、御絵図の繊維材質に関する下記の調査結果(2003年/那覇市)を参考に検討する。

文書番号	表題	紙質	掲載頁
5	御絵図帳(7~8丁目) 白地緋	木材繊維75%+綿10%+稲10%+コウゾ5%程度	p.22
5	御絵図帳(9~10丁目) 白地緋	コウゾ	p.22
5	御絵図帳(5~6丁目) 白地緋	コウゾ	p.23
6	御絵図帳(3~4丁目) 橙地緋	コウゾ	p.22
7	御絵図帳(3~4丁目) 黄色地に黒経緯緋	コウゾ	p.21

pp.14-30 『尚家関係資料総合調査報告書I 古文書編』 那覇市、2003年。



## (2) 衣裳製作

- ① 糸質・密度・布幅は、参考資料に基づき協議の上決定する。
- ② 試織1：糸質（太さ、撚り数）及び箴密度を決定するためのサンプル製作。
- ③ 試織2：本製作の確認のための試作。
- ④ 本製織。

素 材：参考資料の糸質（太さおよび撚り数）に近い苧麻糸とする。

精・漂白した苧麻糸とする。

布密度（完成後）：御絵図の横幅と参考資料の布幅を検討し、布密度を決定する。

布 幅（完成後）：御絵図の横幅と参考資料の布幅を検討し、布幅を決定する。

布 長（完成後）：御絵図の縦長と参考資料の身丈を検討し、布長を決定する。

2反分：試作用+本製作用とする。

$2 \times (\text{身丈} + \text{袖丈} \times 4 + \text{見本})$

洗濯仕上げ：洗濯後の砧打ち仕上げについては協議し決定する。

## (3) 縫製

- ① 参考資料の縫製（寸法、形態、縫い糸等）に基づいた製作とする。
- ② 参考資料調査データに基づいて寸法表・裁断図・完成縮尺図を作成する。
- ③ 原寸大の縫製見本を作成する。
- ④ 縫製見本と参考資料を確認し、本縫製へ進む。

## (4) 納品

試作および本製作、余った材料の一部、調査時・試作時・本製作時の写真等、報告書を納品すること。本製作の作品については、中性紙製の紙箱を作成して納品すること。

\* 作品用の中性紙箱のサイズ（W:幅・D:奥行き・H:高さ）は、博物館担当者に確認すること。

## [類例・参考]

### (1) 御絵図（黄色地）・御絵図柄衣裳

- ・ 沖縄県立博物館・美術館所蔵「御絵図（黄色地）」および御絵図柄衣裳
- ・ 那覇市歴史博物館所蔵「御絵図（黄色地）」および御絵図柄衣裳
- ・ 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵「御絵図（黄色地）」
- ・ 石垣市八重山博物館所蔵「御絵図（黄色地）」
- ・ 日本民藝館所蔵「御絵図（黄色地）」および御絵図柄衣裳、注文書

## (2) 科学調査

①那覇市歴史博物館所蔵 国宝 琉球国王尚家関係資料「古文書（御絵図を含む）」の繊維調査

調査日時：2002年（平成14）1月10日～12日

調査者：大川昭典（高知県立紙産業技術センター 技術部長）

調査内容：文書100点余をサンプリングし、試薬および顕微鏡観察により素材を特定。

②那覇市歴史博物館所蔵 国宝 琉球国王尚家関係資料「御絵図」の非破壊色材調査

調査年度：2007年（平成19）

調査者：デンマテリアル株式会社 色材科学研究所

調査内容：蛍光X線スペクトル（XRF）による顔料・染料の色材調査

## (3) 御絵図資料

①田中俊雄（遺稿）「沖縄の御絵図帳」（『民藝1月号』日本民藝協会、1983年）。

②祝嶺恭子・ルバース吟子・與那嶺一子・崎浜秀昌・東恩納直子「琉球王朝における「御絵図」その1 資料編 写真」（『沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要 第4号』沖縄県立芸術大学、1991年）。

③祝嶺恭子・ルバース吟子・與那嶺一子・崎浜秀昌・東恩納直子・柳悦州「琉球王朝時代における「御絵図」絣基本単位による分析」（『沖縄県立芸術大学美術工芸学部紀要 第5号』1992年）。

④與那嶺一子「染織資料Ⅳ—御絵図—」（『沖縄県立博物館・美術館紀要 No.3』2010年）。

⑤「御絵図」pp.622-635（柳悦州編『日本民藝館所蔵沖縄染織品 第2巻 沖縄の織物』沖縄県立芸術大学附属図書館、2017年）。

⑥山田葉子「琉球国王尚家関係資料「御絵図（みえず）」の絣基本単位による分析」（『沖縄芸術の科学』第30号抜刷、2018年）。

## (4) 御絵図と衣裳

・柳悦州「日本民藝館所蔵久米島織物について」pp.46-53（『特別企画展 久米島紬—未来への想い—』久米島自然文化センター（現・久米島博物館）、2010年）。

・図録「御絵図～琉球の織物デザイン～」（那覇市歴史博物館、2018年）。

## (5) 御用布の注文史料（絵図・注文書）

・上江洲敏夫「三 久米島紬関係資料について」（『史料編集室紀要』第14号、沖縄県立図書館史料編集室、1989年）。

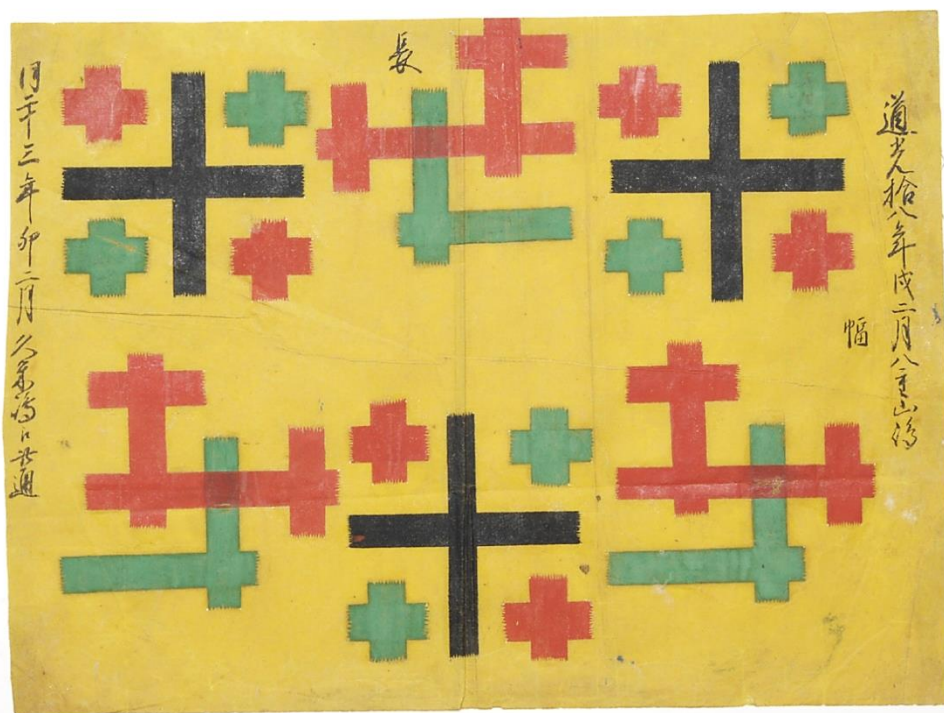
・得能壽美・ティネッロマルコ「道光一八年御手形写所収の江戸上り関係史料をめぐって」（『沖縄文化研究』36、法政大学沖縄文化研究所、2010年）。

・「注文書について」p.647（柳悦州編『日本民藝館所蔵沖縄染織品 第2巻 沖縄の織物』沖縄県立芸術大学附属図書館、2017年）。

- ・宮城奈々「近世琉球における御用布の注文と絵形」（『沖縄染織研究会通信』Vol. 87、2020年）。
- ・宮城奈々「近世琉球における御用布注文の仕組みに関する考察―「道光15未年御手形写」・「道光18戌年御手形写」を中心として―」（『地域研究』No. 27、沖縄大学地域研究所、2021年）。
- ・宮良みゆき「久米島紬「番号付御用布」について 「仲村渠昌清資料」所収、新出資料二点から」（『久米島博物館紀要』第21号、久米島博物館、2021年）。

#### （6）染織文化財資料の色材

- ・佐々木良子「上江洲家資料への科学的なアプローチ」pp. 36-45（『特別企画展 久米島紬―未来への想い―』久米島自然文化センター（現・久米島博物館）、2010年）。
- ・『科学の目でみる琉球王国の色とその色材～国宝・琉球国王尚家伝世品をはじめとする琉球・沖縄の染織品を中心に～』下山進監修、上江洲安亨・大下浩司・佐々木益・篠原あかね・下山進・下山裕子・宮城奈々・宮里正子・宮良みゆき・山田葉子・與那嶺一子共著、一般財団法人沖縄美ら島財団、2024年）。



表側



裏側

<small>くるじ ばしょういしろう クルチョージン</small> <b>〔復元資料名〕 黒地芭蕉衣裳（黒朝衣）</b>	
〔原資料名〕 黒朝衣	〔指定〕 なし
〔年代〕 18～19 世紀	〔作者〕 ー
〔所蔵〕 沖縄県立博物館・美術館	〔所蔵番号〕 452
<b>〔選定理由〕</b> <p>黒朝衣は、琉球王国時代に役人の大礼時の正装として用いられていた。極細の無撚芭蕉糸で織られる朝衣は、糸作り、製織などに高度な技術が求められ、これまで模造復元されてこなかった。最新の調査により、繊維は生引き、濃紺の色は後染めによることが分かってきた。</p> <p>最新の研究成果を活かしながら、朝衣の模造復元することで、琉球の人々が高めた芭蕉布づくりの高度な技を示したい。</p>	
〔保存状態〕 良好、所々に穴有り	
<b>〔法量〕</b> 布幅：39.8cm 前幅（裾）：33.0cm 前幅（衿下）：27.7cm 前幅（袖下）：28.9cm 前幅（剣先）：33.0cm 後幅（裾）：33.0cm 肩幅：3.33～39.0cm 袖幅：29.0cm 身丈：136.5cm 袖丈：47.5cm 袖付け：48.0cm 身八口：なし 襷：5.5cm か？ 衿幅：18.0cm 合妻幅：18.0cm 衿下：31.0cm 衿下：14.0cm 衿肩あき：7.0cm 衿幅：15.0cm 衿長：未測定	
〔素材・材質〕 芭蕉（無撚り）	〔色材〕 未調査
<b>〔技法〕</b> 組 織：平織 密 度：経糸 17～18 本/0.5cm 緯糸 15～17 本/0.5cm 現状色：黒に近い紺 縫 製：単衣	〔付属〕 なし
	<b>〔想定される科学調査〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三次元蛍光スペクトル非破壊分析（染料）</li> <li>・ 可視-近赤外反射反射スペクトル非破壊分析（色材固有のスペクトル解析）</li> <li>・ 赤外線写真（画像解析）</li> </ul>
	<b>〔主たる材料調達先〕</b> 芭蕉糸：沖縄県内の芭蕉布製作者 色材：藍は、沖縄県内の琉球藍製造者。

[年度別工程表]

年度	製作内容
2024(令和6)年	①県内資料調査・研究
	②科学調査
	③芭蕉糸作り
2025(令和7)年	①県内資料調査・研究
	②芭蕉糸作り
	③色材確保
	④縫製設計図作成
	⑤縫製見本製作
2026(令和8)年	①県内資料調査・研究
	②芭蕉糸作り
	③藍建て
	④芭蕉衣裳試作
2027(令和9)年	①県内資料調査・研究
	②芭蕉衣裳本製作
	③藍建て
	④後染め・仕上げ
2028(令和10)年	①県内資料調査・研究
	②本縫製
	③保存箱作成

[製作仕様]

(1) 製作

- ① 原資料に基づき糸質・密度・布幅は、協議の上決定する。
- ② 試織1：糸質（太さ、撚り数）及び箆密度を決定するための試作。
- ③ 試織2：本製作の確認のための試作。
- ④ 本製織。

素 材：原資料の糸質（太さおよび撚り数）に近い芭蕉糸とする。

糸績み：生引き、機結びによる繋ぎとする。

経糸糊付け：協議により決定する。

布密度（完成後）：未計測

布 幅（完成後）：協議にて決定する

布 長（完成後）：協議にて決定する

(2) 後染め（以下については、協議して決定する）

藍で浸染（染重ね）。藍染色後、灰汁貫き処理。宮古上布の伝統的な紺染めを参考に、松葉またはヤブニッケイを煎じた湯に布を漬染する。その後、水洗し乾燥。

(3) 仕上げ

砧打ち仕上げまたは擦り仕上げについて、協議して決定する。

(4) 縫製

- ① 参考資料に基づいた製作（衿仕立て）とする。

② 参考資料調査データに基づいて寸法表・裁断図・完成縮尺図を作成する。

③ 原寸大の縫製見本を作成する。

④ 縫製見本と原資料を確認し、本縫製へ進む。

(5) 納品

試作および本製作、余った材料、調査時・試作時・本製作時の写真等、報告書を納品すること。本製作の作品については、中性紙製の紙箱を作成して納品すること。

\* 作品用の中性紙箱のサイズ (W:幅・D:奥行き・H:高さ) は、博物館担当者に確認すること。

**[調査]**

(1) 沖縄県立博物館・美術館所蔵「黒朝衣」、「白朝衣」

調査日時：2022年8月17日

調査場所：沖縄県立博物館美術館 博物館班 撮影室

調査者：與那嶺・篠原（県博）、大城あや・津覇洋子（染織作家）、宮城（美ら島）

資料名：①台帳番号 452 「黒朝衣」（寄贈）

②台帳番号 3885 「黒朝衣」（収集）

③台帳番号 1600 「黒朝衣」（購入）／紙に「大里御殿」と記載有り

④台帳番号 9046 「黒朝衣」（寄贈）

⑤台帳番号 344 「黒朝衣」（寄贈）

⑥台帳番号 15093 「シルチョウ（芭蕉無地上衣）」（寄贈）

⑦台帳番号 22723 「シルチョウ」（寄贈）

(2) 松坂屋コレクション「黄緑地芭蕉衣裳」

調査日時：2022年11月22日

調査場所：沖縄県立博物館美術館 博物館班 会議室

調査者：祝嶺・渡名喜・山田（監修者）、與那嶺・篠原（県博）、宮城（美ら島）

(3) 那覇市歴史博物館所蔵「黄緑地芭蕉衣裳」

調査日時：2022年10月31日

調査場所：那覇市歴史博物館

調査者：祝嶺・渡名喜・山田（監修者）、與那嶺・篠原（県博）、宮城（美ら島）

**[類例・参考]**

(1) 衣裳

① 『ベルリン国立民族学博物館所蔵 琉球・沖縄染織資料調査報告書〈資料編・図版編〉』

祝嶺恭子執筆・監修、(一財)沖縄美ら島財団、2013年。

図版編 72頁：No. 6714 芭蕉紺地平織衣裳

資料編 64頁：No. 6714 天青色朝衣／里之子筑登之男ノ部／第17号

丈 139.0、衿 75.0、袖幅 39.0、密度（経×緯）38本×24本。

図版編 79頁：No. 6720 芭蕉浅地平織衣裳



資料編 69 頁 : No. 6720 水色朝衣／平民男ノ部／第 18 号

丈 140.0、衿 71.0、布幅 38.4、密度 (経×緯) 28 本×25 本。

②『東京国立博物館図版目録 琉球資料篇』東京国立博物館、平成 14 年 (2002) 5 月。

142 頁 : 225 チョーギン K39091

233 頁 : 222 チョーギン K39091 絹芭蕉製 1 領、江戸時代 19 世紀、丈 149.0、衿 73.7。

横目以上の男の礼服。極上の絹芭蕉糸で織り上げ、最上の藍で染めたあとタカラ  
ガイでこすって光沢を出し、砧で打つ。大袖。琉球王府ではクルチョウという。

C57150、c57151、c58633、c58634、174852、174853

③図録『ほこらしや奄美 海と山の織りなすシマの世界』第 60 回記念 黎明館企画特別展令和  
三年度黎明館企画特別展実行委員会、令和 3 年 (2021) 10 月。

32 頁 : 第二節 祝女ノロの祭祀

画像「49 大袖衣 (芭蕉白地神衣)」奄美市立奄美博物館蔵

113 頁 : (解説) 鹿児島県指定有形民俗文化財、作者・使用地域：奄美市名瀬大熊、  
衿 79.5、身丈 125.0

ノロが打掛けにして着る長着。袖の脇下に襦 (沖縄ではワチスビと呼ぶ) がい  
れられており、琉装の特徴を持つ。この襦を「南島雑話」は「ワキヤツミ」と  
いう名称で紹介している。

④図録『歴史をひらく・琉球文化秘宝展』124 頁、那覇市制 70 周年企画、平成 3 年 (1991) 9 月。

⑤図録『おしゃれ・モダン王国の技～那覇士族「貝氏」福地家伝世品～』那覇市歴史博  
物館開館 1 周年記念、那覇市歴史博物館、平成 19 年 (2007) 7 月。

⑥一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵「No. 83 黒朝衣」、「No. 84 芭蕉布衣裳」

⑦八重山

竹富島 喜宝院所蔵「黒朝衣」

石垣島 南島資料館所蔵「黒朝衣」

⑧奄美大島

・宇検村教育委員会所蔵「黒朝衣」

・奄美市歴史民俗資料館所蔵「黒朝衣」

[資料名] 沖縄県立博物館・美術館所蔵 「黒朝衣（台帳番号 452）」



<small>くめじまうえぐすくのろししゅうきぬいしょう</small> <b>[復元資料名] 久米島宇江城ノロ刺繍絹衣裳</b>	
<b>[原資料名] 絹薄茶地綾織上衣</b>	<b>[指定]</b> なし
<b>[年代]</b> 15～16 世紀	<b>[作者]</b> ー
<b>[所蔵]</b> 久米島博物館	<b>[所蔵番号]</b> ー
<b>[選定理由]</b> <p>本資料は、久米島、宇江城ノロの衣裳として伝世するもので、衣裳に直接刺繍せず、刺繍した別布を衣裳に綴じつける切り嵌めという技法による加飾がなされている。</p> <p>このような作例は、鎌倉芳太郎が撮影した写真に「あしやげこむね」（王妃衣裳／中城御殿）が確認できる。あしやげこむねは女性の大礼服とある（『球陽』）。</p> <p>本作品には、これまで紹介された琉球千鳥繡いはもちろん、他の技法もみられ、琉球古刺繍の広がりをもつために模造復元の原資料として選定した。</p>	
<b>[保存状態]</b> 良好	
<b>[法量]</b> 布幅：29.0cm 前幅（裾）：38.5cm 前幅（衿下）：38.5cm 前幅（袖下）：37.5cm 前幅（剣先）：31.0cm 後幅（裾）：38.0cm 肩幅：38.0cm 袖幅：38.0cm 身丈：120.0cm 袖丈：55.0cm 袖付け：53.0 身八口：なし 襷：5.0cm 衿幅：23.0cm 合妻幅：21.5～22.5cm 衿下：25.5～26.5cm 衿下：9.0cm 衿肩あき：6.0cm 衿幅：未計測 衿長：未計測	
<b>[素材・材質]</b> 絹	<b>[色材]</b> 未調査
<b>[技法]</b> 絹布組織：平織 密度：経糸 40 本/cm、緯糸 28 本/cm 技法：琉球古刺繍（千鳥繡い、他） 現状色：地糸は淡い水色、切り嵌め布は淡い緑みの水色、刺繍糸は白・青・橙（赤の褪色に見える） 縫製：大袖衣	<b>[付属]</b> なし
	<b>[想定される科学分析]</b> ・三次元蛍光スペクトル非破壊分析（染料） ・可視-近赤外反射反射スペクトル非破壊分析（色材固有のスペクトル解析） ・赤外線写真（画像解析）
	<b>[主たる材料調達先]</b> 刺繍基布：県外専門業者 刺繍用絹糸：県外専門業者 切り嵌め用絹布：県外専門業者

[年度別工程表]

年度	製作作業内容
2024(令和6)年	① 県内資料調査・研究
	② 科学調査（非破壊色材分析）
	③ 下絵作成
	④ 絹布・切り詰め用絹布製作設計
2025(令和7)年	① 県内調査費
	② 下絵作成
	③ 刺繍糸・道具確保
	④ 刺繍糸・絹布の試染（色見本）
	⑤ 絹布・切り詰め用絹布の試作
	⑥ 縫製設計図作成
	⑦ 縫製見本製作
2026(令和8)年	① 県内調査費
	② 絹布・切り詰め用絹布の本製作
	③ 刺繍糸染色
	④ 刺繍試作
2027(令和9)年	① 県内調査費
	② 刺繍本製作
2028(令和10)年	① 県内調査費
	② 刺繍本製作・仕上げ
	③ 本縫製
	④ 保存箱作成

[製作仕様]

(1) 刺繍基布（衣裳本体）製作

- ① 原資料の糸質・密度・布幅は、協議の上決定する。
- ② 試織1：糸質（太さ、撚り数）及び箆密度を決定するためのサンプル製作。
- ③ 試織2：本製作の確認のための試作。
- ④ 本製織。

素材：原資料の糸質（太さおよび撚り数）に近い絹糸とする。

布密度（完成後）：経糸 40 本/cm、緯糸 28 本/cm

布幅（完成後）：39.2 cm×2（袋縫い）

布長（完成後）：○cm（2反分：試作用＋本製作用）  
2×（身丈○×6＋袖丈○×4＋見本）

(2) 刺繍基布（切り詰め用）

- ① 原資料の糸質・密度・織組織に基づいた製作とする。
- ② 試作確認後、本製作とする。

### (3) 縫製

- ① 原資料の縫製（寸法、形態、縫い糸等）に基づいた製作とする。
- ② 原資料調査データに基づいて寸法表・裁断図・完成縮尺図を作成する。
- ③ 原寸大の縫製見本を作成する。
- ④ 縫製見本と原資料を確認し、本縫製へ進む。

### (4) 納品

試作および本製作、余った材料の一部、調査時・試作時・本製作時の写真等、報告書を納品すること。本製作の作品については、中性紙製の紙箱を作成して納品すること。

\* 作品用の中性紙箱のサイズ（W:幅・D:奥行き・H:高さ）は、博物館担当者に確認すること。

### [調査]

久米島博物館所蔵「絹薄茶地綾織上衣」

調査日時：2024年（令和5）1月24日

調査者：寺田貴子、山田葉子、篠原あかね、與那嶺一子、宮城奈々、他古刺繍研究会

### [類例・参考]

#### (1) 衣裳、裂残欠

- ① 「457 あしやげこむね」、「458 あしやげこむね 緞子地綵繡」、「459 あしやげこむね 緞子地綵繡」 p. 346（鎌倉芳太郎『沖縄文化の遺宝』岩波書店、1982年）。
- ② 久米島町 屋慶名家伝世「あしあげこむね」
- ③ 伊是名村 名嘉家伝世 「刺繍大袖衣」、「掛け袱紗様刺繍裂残欠」
- ④ 本部町嘉津宇 仲村家伝世 「刺繍大袖衣」、「鳳凰文様刺繍裂残欠」、「獬豸（カイチ）様文様刺繍裂残欠」
- ⑤ 沖永良部島 森家伝世 「刺繍大袖衣」

※②～④は片岡淳、植木ちか子、寺田貴子「琉球文化圏にのこる古刺繍の調査報告 本部町嘉津宇の仲村家伝世品を中心に」参照（p. 55-76）。

- ・ 寺田貴子「久米島博物館所蔵 15～16世紀神女衣装の刺繍の特徴」活水論文集（ISSN2434-8015（Online）第66集、活水女子大学、2023年）。

p. 117より引用

- 2) 製作年代 琉球文化圏にのこるいくつかの染織品の年代測定は、すでに共同研究として名古屋大学の中村俊夫教授らによって行われており、関連資料の製作年代を表2に示す。**本資料の製作年代は1442年～1512年（85.9%）である。**

- ・ 寺田貴子「久米島博物館所蔵 刺繍神衣裳」 pp. 72-73、2007年12月調査（片岡淳『沖縄の服飾および染織技術の非破壊的分析のデータ構築 報告1』科学研究費基盤研究B、琉球大学教育学部、2015年）。

[資料名] 久米島博物館所蔵「絹薄茶地綾織上衣」



前身頃



襟部分



衽・衿部分

<p><b>〔復元資料名〕</b>  <small>こんじぬいとおりもめん</small> ①紺地縫取織木綿ティーサージ、<small>しろじぬいとおりもめん</small> ②白地縫取織木綿ティーサージ、<small>しろじかすりばしょうもめん</small> ③白地 紺 芭蕉木綿ティーサージ、<small>しろじ しまびんがたちよま</small> ④白地よろけ縞紅型 苧麻ティーサージ、<small>ももいろじばいかしぼりぞめちよま</small> ⑤桃色地梅花絞り染苧麻ティーサージ</p>		
<p><b>〔原資料名〕</b>          ①紺地読谷山花織ティサジ、②白地読谷山花織ティサジ、③木綿白地紺ティサジ、④段染紅型ティサジ、⑤木綿花染絞ティサジ※苧麻</p>	<p><b>〔指定〕</b> なし</p>	
<p><b>〔年代〕</b> 19世紀か</p>	<p><b>〔作者〕</b> —</p>	
<p><b>〔所蔵〕</b> 沖縄県立博物館・美術館</p>	<p><b>〔所蔵番号〕</b> ①No.1568、②No.1023、③No.1910、④No.1940、⑤No.1913</p>	
<p><b>〔選定理由〕</b></p> <p>ティーサージは「手巾、手拭い・手掛け」等と文献には記され、旅立ちや贈答に使われていたもので、沖縄各地で製作されていた。芭蕉、木綿、絹、羊毛等の繊維素材に、型染、絞り、紺、縞、花織、縫取織などの技法による様々な作例が残っている。</p> <p>ティーサージの模様は規則正しい繰り返しではなく、織り手の感性の赴くままに製織されている。技法や素材の異なる作例を模造することで、規則性を避ける傾向にある琉球の美意識の原点を探る。腰機による製織は実験的には行われているが、今回は腰機による模造復元も試みる。</p>		
<p><b>〔保存状態〕</b> 良好</p>		
<p><b>〔法量〕</b></p> <p>①布幅：26.0cm 布丈：86.0cm ②布幅：30.0cm 布丈：77.5cm ③布幅：23.0cm 布丈：80.0cm          ④布幅：35.0cm 布丈：71.0cm ⑤布幅：31.0cm 布丈：85.0cm</p>		
<p><b>〔素材・材質〕</b></p> <p>①木綿、羊毛 ②木綿、絹、羊毛</p>	<p>③木綿、芭蕉 ④苧麻 ⑤苧麻</p>	<p><b>〔色材〕</b> 未調査</p>
<p><b>〔技法〕</b></p> <p>①縫取織と縞縞/紺地、縫取糸は白・黄・桃・赤・緑色、縞縞は白・黄色。          ②縫取織/白地、縫取糸は赤・緑・紫・紺色。          ③縞縞と縞縞/白地、縞縞と縞縞は赤・紺色。          ④型染め、両面染白地、模様の配色は黄・赤・緑・青・茶色。          ⑤縫い絞り/紅花染めによる緋色だったと思われる（褪色している）。</p>		<p><b>〔付属〕</b> なし</p>
<p><b>〔想定される科学調査〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光 X 線非破壊分析（顔料）</li> <li>・三次元蛍光スペクトル非破壊分析（染料）</li> <li>・可視-近赤外反射反射スペクトル非破壊分析（色材固有のスペクトル解析）</li> <li>・赤外線写真（画像解析）</li> </ul>		<p><b>〔主たる材料調達先〕</b></p> <p>木綿糸：県外専門店 色材：県外染料店          芭蕉糸：県内芭蕉布製作者 型紙：県外専門店          絹糸：県外専門店          苧麻糸：石垣島または宮古島の上布製作者</p>



[年度別工程表]

年度	製作作業内容
2024(令和6)年	①県内資料調査・研究
	②科学調査
	③図案製作
2025(令和7)年	①県内資料調査・研究
	②材料確保／綿糸、苧麻布、型紙
	③色材確保
	④試作(地機)
2026(令和8)年	①本製作(見本も含む)
	②本製作／縫取織
	③本製作／絞り染め
	④本製作／型染め
2027(令和9)年	①仕上げ(織切り部分の縫製)
	②本製作／縫取織
	③本製作／絞り染め
	④本製作／型染め
	②保存箱作成

[製作仕様]

- (1) ティーサーズ①、②、③(紋織、緋)
  - ① 糸質・密度・布幅・布長は、原資料に基づき協議の上決定する。
  - ② 試織1：糸質(太さ、撚り数)及び箆密度を決定するための試作(紋織、緋、縞、試染)。
  - ③ 試織2：本製作の確認のための試作。
  - ④ 本製作の織機(腰機、地機、高機)は協議して決定する。
- (2) ティーサーズ④(絞り染め)
  - ① 糸質・密度・布幅・布長は、原資料に基づき協議の上決定する。
  - ② 試織1：糸質(太さ、撚り数)及び箆密度を決定するための試作(基布製作、試染)。
  - ③ 試織2：本製作の確認のための試作
  - ④ 本製作の基布製作と絞り染め。織機(腰機・地機・高機)は協議して決定する。
- (3) ティーサーズ⑤(型染)
  - ① 糸質・密度・布幅・布長は、原資料に基づき協議の上決定する。
  - ② 試織1：糸質(太さ、撚り数)及び箆密度を決定するための試作(基布製作、試染)。
  - ③ 試織2：本製作の確認のための試作
  - ④ 型紙製作(下絵、型彫り)
  - ⑤ 本製作の基布製作と型染め。織機(腰機・地機・高機)は協議して決定する。
- (4) 納品
 

試作および本製作、余った材料の一部、調査時・試作時・本製作時の写真等、報告書を納品すること。本製作の作品については、中性紙製の紙箱を作成して納品すること。

\* 作品用の中性紙箱のサイズ(W:幅・D:奥行き・H:高さ)は、博物館担当者に確認すること。

[資料名] ① 沖縄県立博物館・美術館所蔵「紺地読谷山花織ティーンサージ (No.1568)」



[資料名] ② 沖縄県立博物館・美術館所蔵「白地読谷山花織ティーンサージ (No.1023)」



[資料名] ③ 沖縄県立博物館・美術館所蔵「木綿白地紺縞ティーサージ (No.1910)」



[資料名] ④ 沖縄県立博物館・美術館所蔵「段染紅型ティーサージ (No.1940)」



[資料名] ⑤ 沖縄県立博物館・美術館所蔵「木綿花染絞ティーサージ (No.1913)」※苧麻

